

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年2月14日
【四半期会計期間】	第84期第3四半期（自 2022年10月1日 至 2022年12月31日）
【会社名】	株式会社上組
【英訳名】	Kamigumi Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 深井 義博
【本店の所在の場所】	神戸市中央区浜辺通4丁目1番11号
【電話番号】	神戸（078）271 - 5119
【事務連絡者氏名】	執行役員 財務本部長 岸野 保宏
【最寄りの連絡場所】	神戸市中央区浜辺通4丁目1番11号
【電話番号】	神戸（078）271 - 5119
【事務連絡者氏名】	執行役員 財務本部長 岸野 保宏
【縦覧に供する場所】	株式会社上組 国際物流事業本部 （東京都港区芝浦3丁目7番11号） 株式会社上組 横浜支店 （横浜市中区北仲通3丁目31番地） 株式会社上組 名古屋支社 （名古屋市港区入船1丁目2番12号） 株式会社上組 大阪支店 （大阪市港区築港2丁目8番24号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第83期 第3四半期連結 累計期間	第84期 第3四半期連結 累計期間	第83期
会計期間		自2021年4月1日 至2021年12月31日	自2022年4月1日 至2022年12月31日	自2021年4月1日 至2022年3月31日
営業収益	(百万円)	195,904	208,469	261,681
経常利益	(百万円)	23,361	27,189	30,875
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益	(百万円)	15,556	18,818	20,861
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	17,342	19,355	25,089
純資産額	(百万円)	362,878	366,617	367,917
総資産額	(百万円)	425,219	437,843	434,734
1株当たり四半期(当期) 純利益	(円)	133.96	168.04	180.14
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	84.9	83.3	84.2

回次		第83期 第3四半期連結 会計期間	第84期 第3四半期連結 会計期間
会計期間		自2021年10月1日 至2021年12月31日	自2022年10月1日 至2022年12月31日
1株当たり四半期純利益	(円)	39.95	58.35

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済活動の正常化により持ち直しの動きがみられるものの、ウクライナ情勢等によるエネルギーや原材料価格の高騰による消費者物価の上昇、急激な為替の変動など、景気の先行きは不透明な状況となっております。

物流業界におきましても、輸出入貨物の取扱いがこのところ弱含んでいる中、燃料費が高騰するなど経営環境は厳しい状態が継続しております。

このような状況下にあって当社グループは、中期経営計画の目標達成に向け、輸入青果物や穀物、食料等の定温貨物の取扱いの需要拡大を見込み東京港に多目的物流センターを新たに開設し、新規事業としては環境に配慮したバイオマス発電所向け燃料のサイロ保管及び輸送の取扱いを新たに開始するなど、事業基盤の強化を図り、物流インフラを支える企業としてサービスの提供を行ってまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における営業収益は、港湾運送事業の伸長などにより、前年同期に比べて6.4%増収の2,084億69百万円となりました。利益面におきましても、前年同期に比べて営業利益は12.5%増益の242億6百万円、経常利益は16.4%増益の271億89百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は21.0%増益の188億18百万円となりました。

セグメント別の事業の状況は次のとおりであります。

(単位：百万円)

セグメント	営業収益			
	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減額	前年同期比
物流事業	174,000	185,764	11,763	6.8%
港湾運送	88,784	98,521	9,737	11.0%
倉庫	27,961	28,329	367	1.3%
国内運送	23,582	22,841	740	3.1%
工場荷役請負	19,433	21,101	1,668	8.6%
国際運送	13,285	13,884	598	4.5%
その他	853	981	127	15.0%
セグメント間取引	99	104	4	4.9%
その他事業	23,600	24,492	892	3.8%
重量・建設	8,834	7,295	1,539	17.4%
その他	13,168	15,513	2,345	17.8%
セグメント間取引	1,596	1,683	86	5.4%
セグメント間取引消去額	1,695	1,787	91	-
合計	195,904	208,469	12,564	6.4%

〔物流事業〕

港湾運送におきましては、新倉庫の稼働開始に伴う保管貨物の増加やコンテナ、穀物及び自動車関連部品の取扱いが増加し、工場荷役請負につきましても、工場の操業度が上昇したことに伴い取扱いが増加となりました。

この結果、物流事業の営業収益は前年同期に比べて6.8%増収の1,857億64百万円、セグメント利益は16.7%増益の216億48百万円となりました。

〔その他事業〕

重量・建設におきましては、重量貨物の運搬据付作業が減少となりましたが、その他におきましては、新車整備の取扱いが増加し、燃料及び鋼材の物品販売も増加となりました。

この結果、その他事業の営業収益は前年同期に比べて3.8%増収の244億92百万円となり、セグメント利益は14.6%減益の25億45百万円となりました。

(2) 財政状態の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、「建物及び構築物」及び「投資有価証券」が減少したものの、「受取手形、営業未収入金及び契約資産」が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて31億9百万円増加の4,378億43百万円となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、「支払手形及び営業未払金」及び「未払法人税等」が減少したものの、新たに長期借入を行ったことなどにより、前連結会計年度末に比べて44億9百万円増加の712億26百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益により増加したものの、配当や自己株式の取得で減少となったことなどにより、前連結会計年度末に比べて13億円減少の3,666億17百万円となりました。

この結果、自己資本比率は、83.3%となりました。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	250,000,000
計	250,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (2022年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2023年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	116,376,837	116,376,837	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	116,376,837	116,376,837	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
2022年11月25日 (注)	4,350	116,376	-	31,642	-	26,854

(注) 発行済株式総数の減少は自己株式の消却によるものであります。

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2022年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 6,033,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 110,273,700	1,102,737	-
単元未満株式	普通株式 70,137	-	-
発行済株式総数	116,376,837	-	-
総株主の議決権	-	1,102,737	-

【自己株式等】

2022年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社上組	神戸市中央区浜辺通4丁目1番11号	5,822,200	-	5,822,200	5.00
上津港運株式会社	神戸市中央区栄町通5丁目2番1号	129,200	-	129,200	0.11
中央港運株式会社	神戸市中央区海岸通4丁目3番7号	81,600	-	81,600	0.07
計	-	6,033,000	-	6,033,000	5.18

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、神陽監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	45,897	45,801
受取手形、営業未収入金及び契約資産	47,075	3 50,532
電子記録債権	748	3 1,005
有価証券	10,500	10,600
棚卸資産	764	880
その他	6,975	7,505
貸倒引当金	56	59
流動資産合計	111,904	116,265
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	104,779	103,278
土地	100,265	100,227
その他(純額)	27,040	27,474
有形固定資産合計	232,086	230,980
無形固定資産		
投資その他の資産	6,649	6,600
投資有価証券	75,101	74,537
その他	9,309	9,778
貸倒引当金	316	318
投資その他の資産合計	84,094	83,998
固定資産合計	322,829	321,578
資産合計	434,734	437,843
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	27,107	3 25,620
未払法人税等	5,817	2,900
賞与引当金	177	136
その他	13,528	11,911
流動負債合計	46,631	40,570
固定負債		
長期借入金	-	10,000
役員退職慰労引当金	66	72
船舶特別修繕引当金	20	25
退職給付に係る負債	18,324	18,871
関係会社事業損失引当金	267	267
その他	1,507	1,418
固定負債合計	20,185	30,656
負債合計	66,816	71,226

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	31,642	31,642
資本剰余金	26,854	26,854
利益剰余金	321,928	308,050
自己株式	25,034	12,992
株主資本合計	355,390	353,554
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,708	10,535
為替換算調整勘定	336	1,004
退職給付に係る調整累計額	294	269
その他の包括利益累計額合計	10,750	11,270
非支配株主持分	1,776	1,792
純資産合計	367,917	366,617
負債純資産合計	434,734	437,843

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
営業収益	195,904	208,469
営業原価	159,724	169,142
営業総利益	36,180	39,327
販売費及び一般管理費	14,655	15,121
営業利益	21,524	24,206
営業外収益		
受取利息	20	18
受取配当金	911	1,593
為替差益	25	57
持分法による投資利益	583	1,027
その他	335	348
営業外収益合計	1,876	3,045
営業外費用		
支払利息	-	11
その他	39	50
営業外費用合計	39	62
経常利益	23,361	27,189
特別利益		
固定資産売却益	245	46
投資有価証券売却益	627	256
特別利益合計	872	303
特別損失		
固定資産除売却損	608	374
関係会社株式評価損	641	224
関係会社事業損失引当金繰入額	267	-
特別損失合計	1,517	598
税金等調整前四半期純利益	22,716	26,893
法人税、住民税及び事業税	7,022	7,753
法人税等調整額	282	304
法人税等合計	7,304	8,058
四半期純利益	15,412	18,835
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	144	16
親会社株主に帰属する四半期純利益	15,556	18,818

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	15,412	18,835
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,567	36
為替換算調整勘定	150	481
退職給付に係る調整額	119	103
持分法適用会社に対する持分相当額	93	29
その他の包括利益合計	1,929	519
四半期包括利益	17,342	19,355
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	17,486	19,338
非支配株主に係る四半期包括利益	143	16

【注記事項】

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響等に関する会計上の見積り)

当第3四半期連結累計期間においては、前連結会計年度の有価証券報告書の追加情報に記載した内容から重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入金に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
神戸メガコンテナターミナル(株)	1,146百万円	神戸メガコンテナターミナル(株)	1,073百万円
夢洲コンテナターミナル(株)	625百万円	夢洲コンテナターミナル(株)	584百万円
飛島コンテナ埠頭(株)	451百万円	飛島コンテナ埠頭(株)	412百万円
(株)サニープレイスファーム	11百万円	(株)サニープレイスファーム	8百万円
計	2,233百万円		2,080百万円

スタンドバイ信用状に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
-		(株)三井住友銀行	130百万円

2 受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
受取手形裏書譲渡高	305百万円	403百万円

3 四半期連結会計期間末日満期手形等

四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日等をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間の末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形等が当四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
受取手形	-	25百万円
電子記録債権	-	9百万円
支払手形	-	258百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
減価償却費	9,588百万円	10,055百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月26日 定時株主総会	普通株式	3,136	27	2021年3月31日	2021年6月30日	利益剰余金
2021年11月12日 取締役会	普通株式	3,136	27	2021年9月30日	2021年12月7日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	5,274	46	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金
2022年11月11日 取締役会	普通株式	4,422	40	2022年9月30日	2022年12月6日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

当第3四半期連結累計期間における、利益剰余金の残高は前連結会計年度末より138億78百万円減少し3,080億50百万円となっております。また、自己株式の残高は、前連結会計年度末より120億42百万円減少し129億92百万円となっております。これらの主な要因は、以下のとおりであります。

自己株式の取得

当社は、2022年5月13日開催の取締役会決議に基づき、当第3四半期連結累計期間において自己株式4,132千株の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が109億99百万円増加しております。

自己株式の消却

当社は、2022年5月13日開催の取締役会決議に基づき、2022年5月24日に自己株式6,770千株の消却を行いました。また、2022年11月11日開催の取締役会決議に基づき、2022年11月25日に自己株式4,350千株の消却を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において利益剰余金が229億99百万円、自己株式が230億6百万円それぞれ減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	物流事業	その他事業	計		
営業収益					
外部顧客への営業収益	173,901	22,003	195,904	-	195,904
セグメント間の内部営業収益又は振替高	99	1,596	1,695	1,695	-
計	174,000	23,600	197,600	1,695	195,904
セグメント利益	18,544	2,980	21,525	0	21,524

(注)1 セグメント利益の調整額 0百万円は連結消去に係る決算調整額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	物流事業	その他事業	計		
営業収益					
外部顧客への営業収益	185,660	22,809	208,469	-	208,469
セグメント間の内部営業収益又は振替高	104	1,683	1,787	1,787	-
計	185,764	24,492	210,256	1,787	208,469
セグメント利益	21,648	2,545	24,194	11	24,206

(注)1 セグメント利益の調整額11百万円は連結消去に係る決算調整額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント		
	物流事業	その他事業	計
港湾運送	88,784	-	88,784
倉庫	27,961	-	27,961
国内運送	23,582	-	23,582
工場荷役請負	19,433	-	19,433
国際運送	13,285	-	13,285
重量・建設	-	8,834	8,834
その他	853	10,434	11,287
顧客との契約から生じる収益	173,901	19,269	193,170
その他の収益	-	2,734	2,734
外部顧客への営業収益	173,901	22,003	195,904

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント		
	物流事業	その他事業	計
港湾運送	98,521	-	98,521
倉庫	28,329	-	28,329
国内運送	22,841	-	22,841
工場荷役請負	21,101	-	21,101
国際運送	13,884	-	13,884
重量・建設	-	7,295	7,295
その他	981	12,615	13,596
顧客との契約から生じる収益	185,660	19,910	205,570
その他の収益	-	2,898	2,898
外部顧客への営業収益	185,660	22,809	208,469

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
1株当たり四半期純利益	133円96銭	168円04銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	15,556	18,818
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益(百万円)	15,556	18,818
普通株式の期中平均株式数(千株)	116,127	111,988

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

(自己株式の取得)

当社は2023年2月10日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について以下の通り決議いたしました。

(1) 自己株式の取得を行う理由

経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため。

(2) 自己株式の取得の内容

取得する株式の種類	当社普通株式
取得する株式の総数	500,000株(上限)
取得する期間	2023年2月13日から2023年3月24日まで
取得価額の総額	1,300百万円(上限)
取得の方法	東京証券取引所における市場買付け

(多額な資金の借入)

当社は2023年2月10日開催の取締役会において、以下のとおり資金の借入を行うことを決議いたしました。

借入先	(株)三井住友銀行
借入金額	10,000百万円
利率	固定金利
借入日	2023年2月28日
返済期日	2027年2月26日
資金使途	事業投資
担保の有無	無

2【その他】

2022年11月11日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (イ) 配当金の総額.....4,422百万円
- (ロ) 1株当たりの金額.....40円
- (ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2022年12月6日
- (注) 2022年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年2月14日

株式会社上組

取締役会 御中

神陽監査法人

兵庫県神戸市

代表社員 公認会計士 川本 章雄
業務執行社員

代表社員 公認会計士 松井 大輔
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社上組の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社上組及び連結子会社の2022年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれておりません。